

仏教の智慧を開く

—浄土宗大本山増上寺所蔵元版大蔵経デジタルアーカイブ化—

慶長の昔、徳川家康公が集め増上寺に寄進した三つの大蔵経
明治維新、関東大震災、東京大空襲を超えて増上寺が現代に伝えたその経蔵
今、ここに仏教の智慧の蔵が開かれます
前回の宋版に引き続き今回は元版のデジタルデータ化についてその意義と未来を議論します

〈対象〉広く一般に公開します（インターネット接続の環境が必要です）

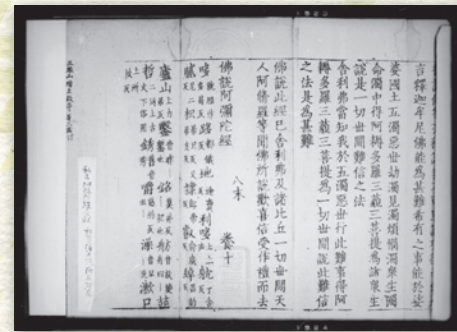
日時 令和3年 **3月8日(月)** 13:00～16:30

場所 **オンライン会議システムZoomにて開催**
(会場での実施はありません)

参加費
無料

発表者と講題

- 上杉智英（京都国立博物館研究員）
「浄土宗大本山増上寺所蔵元版大蔵経、画像公開の意義」
- 野沢佳美（立正大学文学部教授）
「印刷漢文大蔵経研究の歴史と課題
— 目録・報告書刊行を中心に —」
- 齊藤舜健（浄土宗総合研究所主任研究員）
「IIFに準拠した増上寺蔵元版大蔵経
デジタルアーカイブの運用」
- 永崎研宣（人文情報学研究所主席研究員）
「大蔵経研究におけるデジタル画像活用の新展開」
- 下田正弘（東京大学大学院人文社会系研究科教授）
総括



参加ご希望の方は、QRコードからお申し込みください。ZoomのミーティングID・パスコードは、開催1週間ほど前にメールでご案内いたします。なお、ご不明な点などございましたら、下記メールアドレスまでご連絡ください。

お問い合わせ▶ 浄土宗総合研究所 〒105-0011 東京都港区芝公園4-7-4 明照会館内4F

TEL:03-5472-6571(代) FAX:03-3438-4033 Eメール:daizokyo2020@jsr.jp



仏教の智慧を開く

—浄土宗大本山増上寺所蔵元版大蔵経デジタルアーカイブ化—

登壇者講演概要

上杉智英(京都国立博物館研究員)

「浄土宗大本山増上寺所蔵元版大蔵経、画像公開の意義」

浄土宗大本山増上寺所蔵の元版大蔵経は、元時代至元十四年(1277)より同二十七年(1290)にかけて、杭州の南山普寧寺僧、道安らにより刊行された、いわゆる「普寧蔵」と呼称される一大仏教叢書である。本発表では、増上寺蔵元版大蔵経の概要を紹介し、デジタルアーカイブ化による画像公開の意義を、①元版大蔵経研究上、②刊本大蔵経の系譜研究上、③大正蔵本の史料批判上、の三つの視座より論じたい。

野沢佳美(立正大学文学部教授)

「印刷漢文大蔵経研究の歴史と課題 —目録・報告書刊行を中心に—」

大正末から始まった「大正蔵」編纂に合わせ『昭和法宝総目録』3冊が刊行された。以後、今日に至るまで、各地の大蔵経調査が漸増する中で多くの「現存目録」や「調査報告書」が刊行された。それらは、大蔵経研究の重要な基礎情報となっている。本報告では、『増上寺三大蔵経目録』に代表される「現存目録」などの刊行が大蔵経研究に果たした役割や問題点とともに、電子化が進む中での意義・課題を考えたい。

齊藤舜健(浄土宗総合研究所主任研究員)

「IIIFに準拠した増上寺蔵元版大蔵経デジタルアーカイブの運用」

増上寺三大蔵中の元版は、デジタル時代以前にマイクロフィルムに撮影収録された。今回、浄土宗総合研究所では、その画像をインターネット上で公開するための国際的な枠組みであるIIIFに則ってデジタルアーカイブ化した。既にデジタルアーカイブ化した宋版と合わせ、実際にWeb上でどのように閲覧等ができるのかを紹介する。

永崎研宣(人文情報学研究所主席研究員)

「大蔵経研究におけるデジタル画像活用の新展開」

大蔵経のデジタル画像は版式や字形の違いをはじめとして、それまでは困難だった様態の比較を容易にしたという点で大蔵経研究に大きな進展をもたらしつつある。SAT DBに実装されつつある、IIIFの特性を活かした「重ねて透過することによる比較」機能は、各大蔵経の比較をより容易にするだろう。本発表では特にその機能を中心としてSAT DBの近況と近い将来について紹介したい。